

今も忘れられないあの声と笑顔～看護の原点～

「ひいな、おはよう。」

これは、私が辛いときに初心を思い出す言葉である。私が看護師を志すきっかけとなった今でも忘れられない患者様がいる。私は、看護学校に入学する前に、病院で看護助手をしていた。当時、高齢の女性 A さんが入院していた。病名は脳梗塞を。脳梗塞発症から十五年以上が経過し、寝たきりで、右麻痺があった。さらに、食事は経管栄養、完全失語症で一言も声を発することがなかった。声は発さないが時折、口を動かす行為がみられた。A さんは何かを伝えたいけど声を出すことができないのかな、と思った私を含めた 3 人の看護助手は、積極的に声掛けをするようになった。

その日から私は、出勤時に必ず、「A さん、おはよう。ひいなです。」と挨拶をした。その他にも時間を見つけては、A さんのところへ行き一方的に他愛もない話をしていた。最初は、無表情で話をしてもうなずくこともできなかったが、次第に目に表情が出てきて口元も笑顔がみられるようになっていたのだ。

声掛けを続けて半年後、私がいつものように挨拶にいくと、A さんは私の顔をみるなりとびっきりの笑顔で、「ひいな、おはよう。」と声を発した。驚きと喜びで思わず泣いてしまった。あの時の声と笑顔は、今でも忘れられない。声掛けを続けるうちに、普通に会話ができるようになり他の看護助手の名前も言えるようになっていった。その後、食事やリハビリテーションも開始され、麻痺のない左手で自立して全量摂取ができるようになっていった。さらに、車いすに乗って食事を食べることができるようまで ADL は向上した。

A さんが退院するまで、退職を見送りたいと思ったが、看護を目指すには退職するしかなかった。私の退職日。この日まで A さんには、私が退職することを伝えていなかった。A さんに退職を告げると、声を発することなく大粒の涙をこぼし、声をあげて泣いてくれた。私も号泣してしまい、涙、涙の最後の挨拶となった。A さんと看護師になることを約束し、さよならをした。

A さんの QOL の向上に対し大きな喜びがあったが、私に疾患や看護の知識があれば、もっと早く回復していたのではないかと大きな後悔が生じた。この後悔がきっかけとなり、A さんのように回復の見込みのある患者様を見逃さない看護師になると決意したのである。

看護学校に入学してから、様々な教科書や論文を読んだが、A さんが回復した理由はわからない。しかし、A さんが話したい・食べたいという心の声を聴くことができたのだと思う。このことが「心に寄り添う」ということだと考える。心に寄り添うことを忘れず、回復力を見逃さない観察力がある看護師に私はなりたい。

A さん、立派な看護師になるので見守っていてくださいね。そして、素敵な夢を見つけさせてくれてありがとうございました。